

2017年6月1日

教養講座：「Fintechの概要～企業経営にもたらす影響は？～」

株式会社マネーフォワード取締役

Fintech 研究所長

瀧 俊雄 様

## 1. Fintech とは

Fintech とは、Finance と Technology の造語である。現在、急速に普及している利便性の高いサービスの担い手であり、ベンチャー企業が主役となっている。LINE Pay は既に3,000万程度の口座があり、みずほ銀行と同程度にまで成長中である。LINE Pay 以外では、Acorns (お釣り貯金アプリ) や Fundbox (請求書発行の代行であり、回収期間を短縮可能)、Kreditech (借入の審査基準が Facebook のアカウント) 等がある。

## 2. なぜベンチャーが主役に？

ベンチャー企業が主役となっている背景には、コンピュータ言語や開発環境の変化により、コストが劇的に低下していることが挙げられる。

次の「いい」サービスは、誰にもわからない。とりわけスマートフォン時代の消費者の支持を得ることは困難であるといえる。こうした状況下で求められるのは、臆することなく様々なアイデアを試みることである。ひいては、新たな試みには失敗はつきものであることを考慮し、失敗が許容される組織づくりが肝要である。

## 3. 近年の主要分野・技術

・会計サービス：金融取引、資産管理の自動化、分析

⇒業務自動化と意思決定力の向上へ。

・決済：スマホカード決済、EC決済、個人間決済

⇒消費者の潜在的な購買力を引き出しつつ、大量のデータを利用可能に。

・本人確認技術：生体認証、認証インフラ

⇒指一本、顔パスでも決済が完了する消費の世界へ。

## 4. キャッシュレス化に向けた潮流

今後、電子マネー・クレジットカードの第二普及期の到来が予想される。2020年の五輪開催を前に、多くの少額取引の現場が、カード対応を開始していくことだろう。

なおキャッシュレス化に向けた動きは海外においても活発であり、デンマークにおいては現金受取義務の緩和、新規紙幣の印刷停止が決まっている。

さらにインドにおいては、紙幣の86パーセントが廃止され、PayTMなどのサービス利用が急拡大しており、いずれマイナンバー・指紋認証と連携し、スマートフォンすら決済に不要の時代が到来するのではないかと囁かれている。

## 5. Fintech がもたらしたもの

- ・誰でも使える技術が増えたことで、どのような会社でもデータを集められるようになった。
- ・取引が円滑になることで、消費者側の潜在的な購買力を引き出せるようになった。
- ・データを活用した業務の自動化、経営の高度化が非常に身近になった。

## 6. Fintech に期待されるもの

我が国における深刻な問題の一つに、少子高齢化が挙げられる。若年層の労働力は、2040年までに東京で三割減、地方によっては半減に近くなることが予想される。人口減少下では、バックオフィス業務も経営の足かせにしかならない。

そこで Fintech に期待されるのが、労働生産性の向上である。現在日本の労働生産性は、米国の六割弱であるといわれている。さらに企業規模別に見ると、小規模事業者の中では特に生産性の格差が大きくなっており、限られたリソースを活かして利益体質を確保することが大きな課題となっている。

## 7. 労働生産性の向上

労働生産性を向上させるためには、業務効率化と意思決定高度化が要となる。

### 《業務効率化》

- ・煩わしい会計作業を自動化し、企業の生産性を大幅に上げる。
- ・隙間時間を活用して意思決定、情報共有を迅速化し、階層、会話のコスト（会議の数）を圧倒的に削減する。

### 《意思決定高度化》

- ・データの連携により分析スピード、精度を向上させる。

以上